国道57号の代替えルートとして整備される国道57号北側復旧ルートで北外輪山を貫く二重峠トンネルの着工式（2017年6月17日）。2020年度の開通を目指す

俵山トンネルルートがあるので、2020年度まではそれらをうまく活用してアクセスを確保していくことが大事だと思います。

松岡　あとはフリートークでお願いします。

蒲島　今回の震災対応において、まず、県民の皆さんが自ら立ち上がってくれたこと、次に、県職員が地震以外の予算は20%縮減のシーリングの中で必死で震災復興を支えてくれたこと、そして、地方の負担最小化のために政府に財政的支援をいただいたことに対し、心から感謝を申し上げたいと思っています。

それから最後にもう一つ。私は、財政再建をしながらの震災対応を常に考えてきましたので、将来に負担をかけずに創造的復興をしていくことが私の使命だと思います。国からいただく税金も血税だと捉え、賢く使っていくことが課題だと感じています。

熊本復興を一つのビジネスモデルに ―― 大西市長

松岡　大西市長はいかがですか。

大西　今回、被災してみて改めて人のつながりのありがたさを実感しましたね。多くの皆さんが支えていただいたおかげで、震災からの復興期が成り立っているということに感謝の気持ちを決して忘れてはいけないと思います。そして熊本復興が全国に波及していくくらいの気持ちでやっていかないと、支援いただいた方々に対する恩返しにならないですね。

松岡　熊本が復興のモデルケースになるのではないでしょうか。

大西　はい。モデルケースになるような復興を皆さんと目指していきます。熊本の事例を教訓として、今後都市におけるさまざまな災害の復旧・復興に生かしていければ、災害の多い日本において強靭な国土が形成されていくのではないかと思います。そしてただ単に復興していくのではなく、被災した経験から得られたことを一つのビジネスモデルにしていくくらいのたくましさ、力強さを我々が持って、引き続き全力で復興にあたっていきたいですね。

地方創生実現のキーワードは持続可能性 ―― 甲斐代表幹事

松岡　甲斐代表幹事はいかがですか。

甲斐　創造的復興の先にある地方創生を実現するキーワードは持続可能性だと思います。持続可能性というのは、いわゆる循環構造の中身とスケールを変えていくという風に私は理解しています。

分かりやすくいえば、県際収支を改善する、すなわち熊本県内のGDPに影響するような収支の改善が必要です。その改善策として挙げられるのは食と農業と観光だと思います。この3つが、我々が努力できる範囲内における収支改善の要素ではないでしょうか。

加えて、先ほど申し上げた生産性の向上、それから付加価値の内製化も大事です。農産物を素材のまま出荷するのではなく、地元の食品加工業に多様性を持たせて、そこに付加価値を付けて出荷していくという動き、すなわち食品加工業の内製化が大変重要ではないかと思います。そうすると、食と農業と観光の3